

特別連続講義 「チェルノブイリ後のロシア語から 3.11 後の日本／日本語を考える」

第1回：フクシマ以後の日本語はどこがおかしいか

講師：尾松亮氏（作家）

日時：4月23日（火）17：30～19：00（終了後、懇親会を予定しています）

場所：東京大学文学部スラブ文学演習室

本郷キャンパス 文学部3号館7階 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

（丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目」、千代田線「根津」、南北線「東大前」各駅より徒歩約10分）

* 東大構内案内図 https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_05_03_j.html

* **予約不要・参加自由**。連続4回の講義を予定しています。**単独回の参加も可能です**。

講義内でロシア語テキストも扱いますが、**ロシア語の知識は必須ではありません**。

関心をお持ちの皆様のご来聴を歓迎します。

【講師プロフィール】

尾松亮（おまつりょう）。1978年生まれ。作家。

東京大学大学院人文社会研究科修士課程修了。2004～07年、文部科学省長期留学生派遣制度により、モスクワ大学文学部大学院に留学。その後、日本企業のロシア進出に関わるコンサルティング、ロシア・CIS地域の調査に携わる。11年～12年「子ども・被災者生活支援法」（2012年6月成立）の策定に向けたワーキングチームに有識者として参加、立法提言に取り組む。

主な著書：『3・11とチェルノブイリ法—再建への知恵を受け継ぐ』（東洋書店新社）、『チェルノブイリという経験—フクシマに何を問うのか』（岩波書店）、『原発事故 国家はどう責任を負ったか—ウクライナとチェルノブイリ法』（東洋書店新社、共著）、『原発避難白書』（人文書院、共著）、『フクシマ6年後消されゆく被害—歪められたチェルノブイリ・データ』（人文書院、共著）

2回目以降の予定 *詳細は初回に決めます。

第2回 チェルノブイリ後のロシア語 (1) 「チェルノブイリ法」とは

第3回 チェルノブイリ後のロシア語 (2) アレクシエヴィチ『チェルノブイリの祈り』を読む

第4回 「その後の世界」を日本語でいかに語るか

使用テキスト（予定）

- 尾松亮『3・11とチェルノブイリ法—再建への知恵を受け継ぐ』（東洋書店新社）
- スベトラーナ・アレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』（岩波現代文庫）
- 川上弘美『神様2011』（講談社）
- チェルノブイリ支援運動九州編『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた～子どもたちのチェルノブイリ』（梓書院） *ベラルーシの子どもたちの作文集。

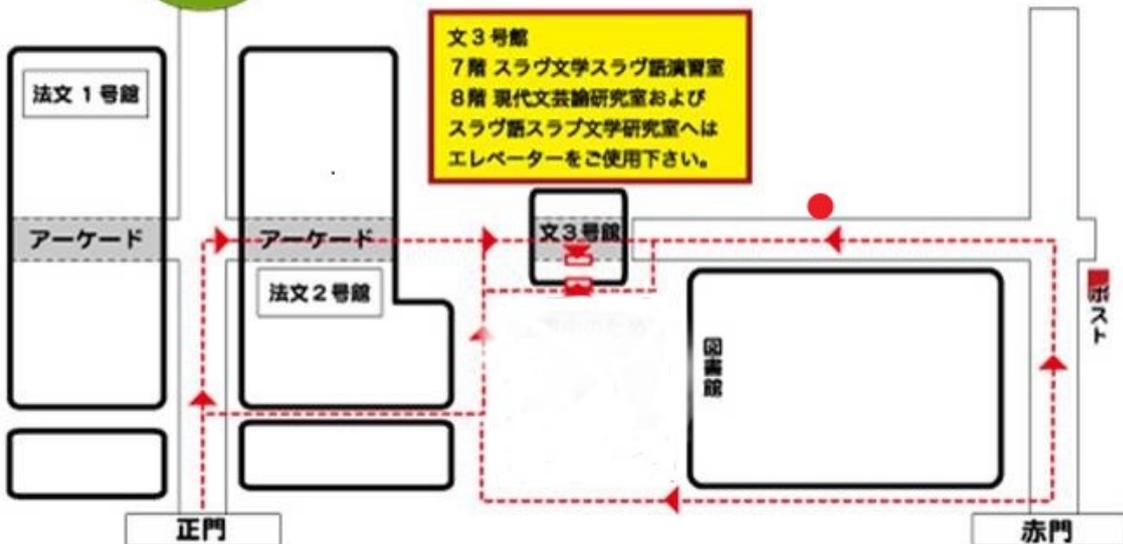
*チェルノブイリ法とアレクシエーヴィチの著書については、ロシア語原文の部分コピーを配布します。

和書についてはできれば事前に読んでください。

★ 問い合わせ先：東大文学部スラブ語スラブ文学研究室 Email: slav.lecture@gmail.com

安田講堂

広場



本郷通り

至 本郷三丁目→